

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2000.5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 193

日本野鳥の会 埼玉県支部

# それって、誘拐です！

山部直喜（三郷市）

「リリーン、リリーン」。この時期、事務局にかかってくる電話の内容はほぼ決まっています。「ヒナを拾いました。助けたいのですが…。野鳥の会であずかってください」。

ああ、まただ～。それって誘拐なんです。助けただけではないのです。保護したのではないのです。誘拐です。

毎年4月から7月にかけて実施している（財）日本野鳥の会と（財）日本鳥類保護連盟の共催「ヒナを拾わないでキャンペーン」も今年で6年目。以下の四つの質問とそれに対する回答は、そのキャンペーンのポスターからの引用です。再確認し、ヒナ誘拐事件撲滅の輪を広げましょう。

**Q** なぜ地面に落ちているヒナをよくみかけるのですか？

**A** 巣立ちしたばかりのヒナはうまく飛べません。だから、枝から枝へ移るときなどに、地面に落ちたりしてしまうのです。

**Q** ヒナを見つけたとき、どうしたらいいのでしょうか？

**A** 近くに姿が見えなくても、親鳥は必ずヒナのもとへ戻って世話をします。人がヒナのそばにいと、かえって親鳥はヒナに近寄れません。そのままにしましょう。

**Q** ネコが近くにいて心配ですが…？

**A** 近くの枝先など、ネコが近寄れない所にとまらせておきましょう。

**Q** 人が野鳥のヒナを育てることはできないのでしょうか？

**A** 私たちはヒナに飛び方や、なにが自分にとって危険なのか教えられません。自然の中で自立していけるように育てるといのはとても難しいことなのです。また野鳥を飼うことは法律で禁止されています。

とにかく、ヒナを見つけたらそのままにし、私たち人間がその場を離れることが、まずはベストです。

私はよくヒナを拾ってくる小学生に対して

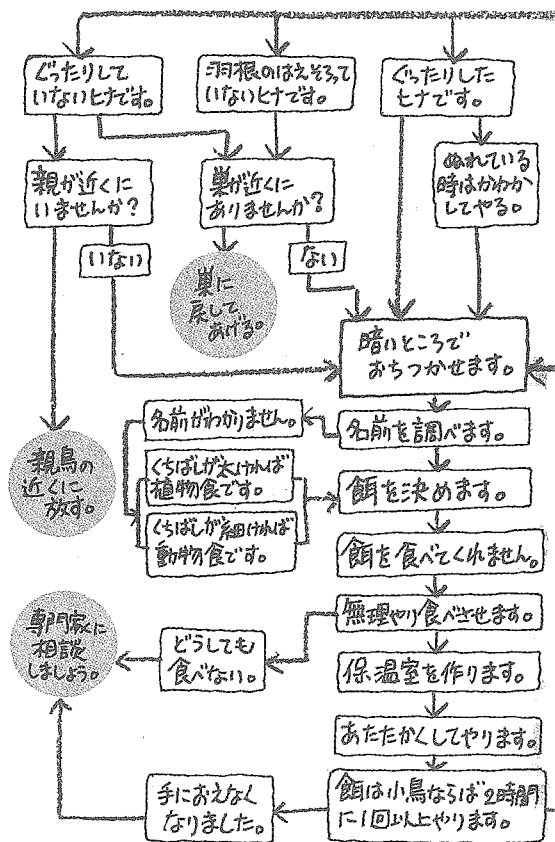
は、もうちょっと具体的に「親は必死にわが子を探している→だから拾った場所に置いてこよう→置いたら急いで50メートル以上離れよう」と話しています。

それでも、私個人が対応せざるを得ない場合が1年に1、2回あります。その時は、下記の（財）日本野鳥の会発行「野鳥110ばん—鳥たちの救急手帳—」の「どうするかチャート」に従います。

しかし、給餌や治療などはパスして、いきなりチャートの結論に従っている場合がほとんどです。ただ、餌としてビタミン剤のポボンS（液状タイプ）を与えたり、治療として濡れた体を拭いたりしたことはあります。

この「野鳥110ばん—鳥たちの救急手帳—」

## どうするかチャート



は、1冊200円で(財)日本野鳥の会のバードショップで販売しています。通信販売はしていません。学校などで利用する場合は、100冊単位なら対応してくれそうです。

なお、巣立ちヒナの詳細な対応については、niftyのFBIRDに故佐々木勉氏の『巣立ちヒナ対応マニュアル』があります。また、インターネット「埼玉県庁自然保護課→検索」でもアクセスできます。すぐれものです。

ヒナに限らず、病気と思われる野鳥、怪我をしている野鳥を拾うこともあります。その時は迷うことなく専門家に預けましょう。

専門家、つまり獣医さんは電話帳で調べられます。また、埼玉県では「傷病野生鳥獣保護診療機関」という制度があり、平成12年4月現在で県内26の獣医さんがそれにあたっています。治療費はかかりませんが、保護した

鳥獣保護行政担当機関

埼玉県庁	自然保護課	野生生物担当	☎ 048-830-3154
中央環境管理事務所	地域環境課		☎ 048-822-5199
西部	自然保護課		☎ 0492-44-1250
秩父	自然保護課		☎ 0494-23-1511
北部	地域環境課		☎ 0485-23-2800
東部	地域環境課		☎ 0480-34-4011

人が獣医さんまで届けてください。あなたが住む町の獣医さんの連絡先は、上の鳥獣保護行政担当機関に問い合わせてください。ここでは、密猟対策や不法飼育などについても相談できます。

ここで平成5年に発足した「越谷市傷病野鳥保護治療・傷病野鳥里親事業」を紹介しましょう。これは、獣医さんを紹介し、治療費はかかりませんが、引き取りにも行きます、放鳥もします、里親もどうですかという制度です。対象は、越谷市行政区域内で市民が通報あるいは保護・看護した傷病野鳥に限定されています。しかし、この「引き取りにも行きます」というのが素晴らしいと思います。このような制度は広がって欲しいものです。

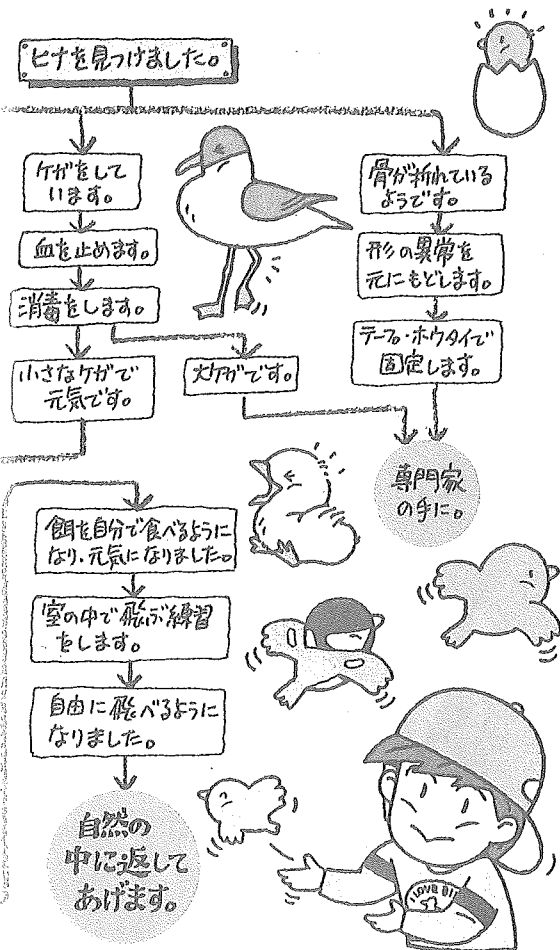
ついでに、野鳥ではありませんが、伝書鳩の場合です。足輪に[NIPPON]なら日本伝書鳩協会(03-3801-2687)へ、足輪に[JAPAN]なら日本鳩レース協会(03-3822-4231)に問い合わせてください。

とにかく、「ヒナは拾わないで!!」と「傷病鳥は専門家へ」です。

また、ヒナも傷病鳥も「野鳥の会」で引き取ることはできないのです。



メジロガモ(菱沼一充)



# 埼玉県内鳥類目録の改訂

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

1996年版目録に次の9種を追加し、2000年版目録とします。( )内は、初めて観察、または保護された年月日と場所です。

1. ミズナギドリ目ミズナギドリ科オナガミズナギドリ (1998年9月18日、川越市)
2. ミズナギドリ目ウミツバメ科クロウミツバメ (1998年8月28日、富士見市勝瀬)
3. コウノトリ目サギ科リュウキュウヨシゴイ (1996年7月6日、浦和市大久保農耕地)
4. ツル目ツル科ナベヅル (1997年12月、行田市酒巻)
5. チドリ目シギ科オオキアシシギ (1996年11月3日、戸田市彩湖)
6. チドリ目ヒレアシシギ科ハイイロヒレアシシギ (1990年12月1日、越谷市南越谷3丁目)
7. チドリ目トウゾクカモメ科オウトウゾクカモメ (1998年6月28日、浦和市下山口新田)



## 2000年夏「鳥の目から環境を調べよう！」 調査依頼

研究部

本調査の観察期間を5月10日から7月10日とし、会員各位のご自宅から半径50m以内で観察された鳥を6月号に同封する調査はがきでご回答下さい。

環境と鳥との関係を見る調査ですので、ドバト、ワカケホンセイインコ、セキセイインコなどかご抜けの鳥もご記入下さい。

1995/1996年冬、1996年夏から年2回会員の皆様方のご協力を得て実施してきました本調査も、2000年夏をもって終了する事となりました。最後ですので、よろしくお願い申し上げます。(小荷田行男)

8. チドリ目ウミスズメ科マダラウミスズメ (1997年12月4日、戸田市彩湖)

9. スズメ目カラス科コクマルガラス (1997年11月12日、越谷市増林)  
合計303種。

この目録をもとにして作成する2000年版埼玉県野鳥チェックリストは、間もなく探鳥会で配布されます。

## 探鳥会って不思議

中村容子・麻子 (深谷市)

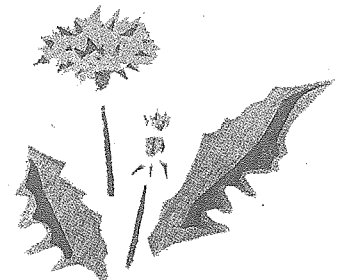
'99年秋、初めて探鳥会に参加させて頂きました。あまりにも何も知らないスタートなので、不安と恥ずかしさがあり、娘も連れていくことにしました。初めての鳥合わせの時「見てない鳥が出てくるかもしれないけど、気にしないでね」と声をかけられ、ホッとしたことを覚えています。

回を重ねるごとに双眼鏡に入る鳥も増え、ルリビタキ、ジョウビタキ、カワセミなどに心踊らせています。

娘は、図鑑を見て憧れていたオシドリに森林公園で出会い、大満足だったようです。スコープを低くして見せてもらったり、たくさんの方に声をかけて頂きました。

知らない人同士なのに、同じ目的で心をひとつにできる探鳥会って、なんだか不思議な気がします。思い切って参加してみても良かったです。

2000年はもう少しパワーアップしなきゃ。



(伊東恵子)

## 朱鷺（トキ）はどこへ行ったのか 吉田修（浦和市）

「野鳥の会」が創設された昭和9年、会報「野鳥」10月号に柴田長之助という医師の方の投稿が掲載されている。この中に、30年余り住んでいるという新潟県栃尾町附近で見つけた80種もの野鳥の名が列記されている。

「栃尾町附近の鳥類としては日雀、四十雀、ヤマガラ、ツグミ、ノジコ、アラジ、クロジ、ホオジロ、イカル、サンコウチョウ、シメ、ヒバリ、ピンズイ、キジ、ヤマドリ、カモ、ルリ、ヒタキ、コマドリ、ノゴマ、ヒヨドリ、サンショウクイ、センダイムシクイ、ゴジュウカラ、シギ類、モズ、ヨシキリ…」そして「以上、記憶に残っているものを無茶苦茶に記録しました。栃尾在住30余年間、朱鷺は一回も見ませぬ」と結んでいる。

柴田氏は地元に残っている「朱鷺の童謡」も同時に寄稿している。

〈朱鷺の童謡〉 鷺々（さぎさぎ／トキのこと）ウンナ（お前）ガ首ハナデ（何故）ソウ長イヤ、腹ガ減ッテ、コウドヤ（このようである）、ツブ（タニシ）フルテ（拾って）喰イヤ、脚ガ汚レ申ス、河中デ洗イヤ、流レ申ス、芒（ススキ）ニ止マレヤ、手ガ切レ申ス、膏薬（こうやく）貼レヤ、蠅ガ糞リ（むしり）申ス、団扇デ煽ゲヤ、手ツ疲ル（たる）御座ル御座ル——こういう歌詞だが、この童謡を当時、どう節回しして唄っていたのであろうか。また、この唄は今、受け継がれているのだろうか。

現在、朱鷺は絶滅寸前であるが、昔はその周辺に数多く生息していたものと思っていた。しかし、昭和9年当時で「30年も見ませぬ」と言っているのだ。一体、朱鷺はいつから栃尾附近から姿を消したのか、なぜ飛んで来なくなったのか？ 童謡が残っているのだから附近にいたことは確かであろうが、朱鷺の生存の条件、生息のための環境など私たちにとって、その生態が明らかになってほしい、まさに興味深い貴重な鳥である。

## コゲラの昼寝？

福井昭子（浦和市）

ある施設の庭にコナラの木があり、鳥見をするのを楽しみにしています。ある日、いました。コゲラです。いつもせわしくなく、私には双眼鏡でやっと追う動きなのに、垂直にとまって尾羽の先をきちんと幹につけた姿勢のまま、じっとしているのです。焦点が合った時、頭が下にさがってコックリといねむりをしているように見えました。顔が白っぽく見え、眼はつぶっていたように見えました。昼寝？ まるでねむい時いねむりするような感じでした。思わず、フッと笑ってしまい、見ていましたが動きません。全然動きませんのでちょっと目をそらしました。そのすきに姿が見えなくなりました。やっぱり昼寝していたのだと思いました。

## 楽しかった銚子港探鳥会

善積理子（吹上町）

1月29～30日、晴天に恵まれて私達25名は銚子港に出掛けました。

途中立ち寄った三番瀬ではスズガモの大群、思い掛けないトモエガモとコミミズク。波崎港には、初めて見るシノリガモとヒメウの姿がありました。

2日目、銚子港を千人塚まで徒歩で探鳥しました。さすがと思うほどのカモメ類が防波堤を埋め尽くし、漁船に群がるカモメ類の中にはシロカモメやワシカモメの姿もあります。ミツユビカモメは至近距離で見られ、四苦八苦しながらもカモメ基本8種を全部確認。また、テトラポットの間にはタヒバリやイソヒヨドリ。犬吠埼の沖合いには、アビが波間に見え隠れしていました。

水平線を眺めながらの車中も、鳥情報にビデオと、意義深いものとなりました。出現鳥も53種を数え、私も6種増やし、優しい鳥仲間を支えられて、旅は楽しく終わりました。

## ジュズカケバト（数珠掛鳩）について

大塚操（越谷市）

ジュズカケバトはシラコバトの別称と誤って解されているところがあります。

このたびシラコバト生息調査に参加することになった機会に、シラコバトに関する特徴、習性、歴史、年表それに天然記念物に指定された経緯等を調べてみました。

すると、シラコバトはジュズカケバト（日本では飼育種）とは全く別の種であるにもかかわらず、大変よく似ているのでしばしば混同されていることが判りました。

特徴から大きな相違点を列挙すると、

- ①大きさはシラコバトよりジュズカケバトが一廻り小さい。
- ②体色はシラコバトよりジュズカケバトが全体的に白っぽい淡褐色をしている。
- ③足の爪、嘴については光沢のない黒色のシラコバトに対し、ジュズカケバトは白っぽく、時には桃色を呈している。
- ④鳴き声は、ポポーポーと鳴き方は同じであるが、長く伸ばす音が巻き舌というか何かを転がすような音で鳴くのがジュズカケバトである。

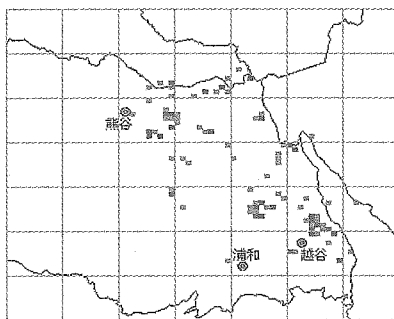
（県民の鳥「シラコバト」昭和49年3月、埼玉県環境部自然保護課発行からの抜粋）

先日、宮内庁埼玉鴨場（越谷市）の鷹師に面談し、シラコバトとジュズカケバトについて質問したところ「別種である」との返事を得た。その鷹師の父親が所有していた違いの判る写真があるそうで、後日見せて頂くことになっている。

最後に埼玉県支部3000名の会員各位にぜひ生息調査に参加されてシラコバトの「ポポーポー」という三拍子でまるやかな優しい鳴き声に感動していただきたいと思っています。

## ■シラコバト観察報告

1月2日	羽生市大字藤井	2羽	吹上野鳥の会
1月7日	吹上町鎌塚5-3	1羽	吹上野鳥の会
1月8日	岩槻市の元荒川城北大橋	10羽	山田由紀子
1月10日	行田市埼玉 埼玉東交差点	2羽	吹上野鳥の会

2000年1月1日～3月28日までの報告157件  
89メッシュ

1月21日	吹上町前原	24羽	吹上野鳥の会
1月23日	春日部市中央1-19	4羽	藤田 和彦
1月30日	春日部市下蛭田152	2羽	山田由紀子
2月13日	南河原村馬見塚 川の近く	1羽	中里 裕一
2月15日	久喜市川妻1122	1羽	中里 裕一
2月16日	騎西町騎西 玉敷神社内	2羽	中里 裕一
2月21日	騎西町根古屋 中央公民館	2羽	中里 裕一
2月26日	群馬県板倉町 東洋大学付近	2羽	中里 裕一
2月27日	吹上町大字袋	15羽	吹上野鳥の会
3月1日	越谷市谷中町4-290の田圃	2羽	大塚 操
3月2日	川島町 ハツ保小学校南側	4羽	大友 慎也
3月3日	群馬県千代田町上五箇	1羽	四分一保雄
3月5日	行田市 北河原小学校前	1羽	四分一保雄
3月10日	行田市藤原町3-7-23	2羽	和田 康男
3月10日	行田市長野4792付近	1羽	和田 康男
3月10日	行田市富士見1-16-1	11羽	和田 康男
3月11日	行田市小針 行田浄水場敷地	3羽	和田 康男
3月11日	行田市小針2789 神仙寺	1羽	和田 康男
3月11日	行田市小針3359 齊藤方牛舎	10羽	和田 康男
3月11日	行田市若小玉1682付近	11羽	和田 康男
3月12日	蓮田市黒浜32 元荒川沿	3羽	道祖土修一
3月12日	行田市 須加小学校東500m	6羽	天野 治男
3月12日	行田市埼玉小字片端	1羽	天野 治男
3月12日	菖蒲町 三箇小学校東側	1羽	立石 京子
3月13日	幸手市上吉羽2100付近	1羽	田村 弘之
3月14日	鴻巣市 JR 鴻巣駅	5羽	内藤 義雄
3月18日	行田市埼玉3507付近	2羽	田村 弘之
3月19日	野田市岩名1815付近	3羽	橋口 長和
3月19日	野田市目吹3290付近	2羽	橋口 長和
3月19日	騎西町内田ヶ谷	3羽	金井 祐二
3月20日	庄和町 吉川線柳橋交差点	2羽	橋口 長和
3月28日	宮代町 東武動物公園西園	2羽	橋口 長和

（3月28日までに届いた60件の報告から重複場所を除く）

坂戸市入西調整池 ◇1月16日、アメリカカコガモ1羽、アメリカヒドリもどぎ1羽、オカヨシガモ、ミコアイサ♀2羽、イカルチドリ1羽、イソシギ1羽、バン1羽、トビ1羽、チョウゲンボウ1羽 (後藤康夫)。

◇1月23日午後12時30分頃、カモ類の中にオオホシハジロ♂1羽 (坂口稔・和子)。

◇1月26日、アメリカヒドリ♂1羽、アメリカカコガモ♂1羽、オオホシハジロ♂1羽 (増尾隆・節子)。

◇2月26、27日、アメリカカコガモ♂1羽、アメリカヒドリ交雑個体♂1羽。ホシハジロ8羽、水深が浅いのか、潜水して浮かび上がってきたら、頭もくちばしも泥をかぶって黒くなっていた (榎本秀和)。

川本町荒川 ◇1月29日、明戸堰上流でコハクチョウ約85羽、ベニマシコ♂♀各1羽、アトリ、キアシシギ1羽、イカルチドリ1羽、タヒバリ (後藤康夫)。

嵐山町菅谷館～都幾川 ◇1月29日、オオタカ1羽、チョウゲンボウ1羽、ノスリ1羽、アトリ、アオジ、カシラダカ、ツグミ、カワセミ4羽、イカルチドリ7羽 (後藤康夫)。

東松山市都幾川 ◇1月30日、稲荷橋周辺でクロジ♂2羽♀1羽、カシラダカ約100羽、シメ約70~80羽、アオジ約20羽、カワラヒワ約100~120羽、ハイタカ1羽、ノスリ2羽、バン3羽 (後藤康夫)。

飯能市精明地区 ◇1月31日、タゲリ4羽、モズ1羽、ツグミ5羽 (杉田和市)。

蓮田市黒浜 ◇1月27日、上沼近くの湿地で枯れたアシの間から、出たり隠れたりしながら、クイナ5羽、タマシギ♂1羽、タシ



クロジ (菱沼一充)

ギ4羽 (道祖土修一)。

◇3月2日、トラツグミが林床を歩いていた。3月13日、林内の藪から人が入って来て、追い出されたヤマシギが左から右へ飛んだ。こげ茶色が大きく、長いくちばしが下を向いていた。ヒガラ1羽、3月15日、下沼横の田んぼでオオタカ若鳥1羽、ツグミらしき鳥を捕まえて飛び立ったが、ハシブトガラス2羽が追撃。あっさり獲物を放して、飛んで行ってしまった (鈴木紀雄)。

上尾市丸山公園 ◇2月6日、西側のちょっと開けた草原でアカハラ2羽。ジョウビタキ♀、シメ、タシギ、カシラダカ、カワセミ。2月27日午前10時~11時30分、カワセミが西側の木の定位置でじっとしているのを観察していると、その脇のアシ原で「チャッチャッ」とウグイスに似た声。気になるが、枯れ草の中でよく見えない。あきらめかけてカワセミに双眼鏡を移すと、すぐに下の小枝に移ってきた鳥、チョコレート色の小さな、図鑑でお馴染みのミソサザイ!! 信じられなかった。でも連れ合いも共に目撃 (山本伊都子)。

表紙の写真

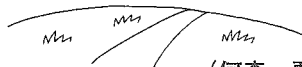
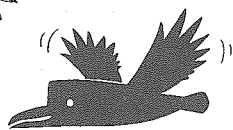
クロツグミ (スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科ツグミ属)

英名では「Grey Thrush」ですが、日本と中国の一部でしか繁殖しないので「Japanese Grey Thrush」とも言います。冬は南に移動し、インドシナ半島などでも越冬します。

県内では山地帯で繁殖する夏鳥ですが、春と秋の渡りの季節には、市街地の林でも観察されます。埼玉レッドデータブックには、荒川以西の低地で絶滅種、台地・丘陵帯で危急種とされています。

蟹瀬武男 (浦和市)

# 行事あんない



(何森 要)

## 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(金・祝)

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:34→南浦和8:37→南船橋9:26着。

担当：杉本、手塚、長谷部、伊藤、斉藤、篠原

見どころ：干潟の生き物が活動を始めるころ、シギ、チドリ類が渡ってきます。繁殖地へ向かう前の晴れ姿を見てやってください。この時期は一年のうちで干潟が賑わいを見せる最高の季節です。シギ、チドリは識別が苦手といわずにぜひお出かけください。

## 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月7日(日)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、中島(康)、中村(榮)、田中、長嶋、松永

見どころ：今回は川島橋をスタートして、広いたんぼで北極圏へ向かう途中の休養と栄養補給のため、立ち寄りをしているムナグロを見ながら歩きます。ほかにオオヨシキリ、セッカ、アマサギ等の夏鳥たちもあなたを歓迎してくれると思います。

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月12日(金)～14(日)

## 長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：5月13日(土)～14日(日)

## 神泉村・城峰公園周辺探鳥会(要予約)

期日：5月13日(土)～14日(日)

◆上記予約申し込みの探鳥会3件は、定員に達しましたので締め切りました。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。  
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：連休も終わり、お疲れのことと思います。ここで気分直しに緑の野道を歩いてみましょう。今は恋の季節です。ヨシの中ではオオヨシキリが唄い、林の中の小鳥達のさえずりも一段とにぎやかです。きっと爽快な気分になれますよ。

## 栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月17日(水)

集合：午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。



交通：往復とも貸切バスを利用します。  
帰着：当日午後5時頃を予定。  
費用：4000円の予定（バス代、高速代、保険料等）万一過不足の場合は当日清算。  
定員：20名（県支部会員優先）  
申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、櫻庭 勇(〒331  
で。

担当：櫻庭、中島（康）、中村（榮）  
見どころ：今年も奥日光に夏鳥たちがやってきました。コマドリ、コルリそしてミソサザイの美声に、ナルシストのキビタキ。草原にノビタキ、ホオアカを求め、湯の湖から湯川沿いに森を抜け、戦場ヶ原を経て赤沼までの、約6kmを歩きます。お弁当、雨具の用意もお忘れなく。それに足ごしらえもしっかりしてお出かけください。

#### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：5月21日（日）  
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。  
後援：浦和市立郷土博物館  
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺（周）、笠原、若林、兼元、森（力）、清水、前澤  
見どころ：初夏の装いをみせる見沼たんぼ。探鳥会に合わせるようにカッコウがやって来ます。近くの森ではアオバズクが鳴く季節です。芝川では、バンヤカルガモの一番雛が見られます。五月晴れ！ シャツの袖を風が吹き抜けていく。みどりの風に会いにおいで下さい。

#### 「しらこぼと」袋づめの会

とき：5月27日（土） 1時～2時ごろ  
会場：支部事務局108号室  
案内：5月、その言葉だけでも爽やかな感じが体の中を通り抜けるような気がしませんか。山野に出てあふれる青葉の匂いの中、自然の精気に溶け込むように

ゆっくりと時を過ごす。最高の贅沢です。さらに半日だけ、この日を予定に入れて頂けると、もっと最高かも。よろしくお祈りします。

#### 狭山市・入間川定例探鳥会

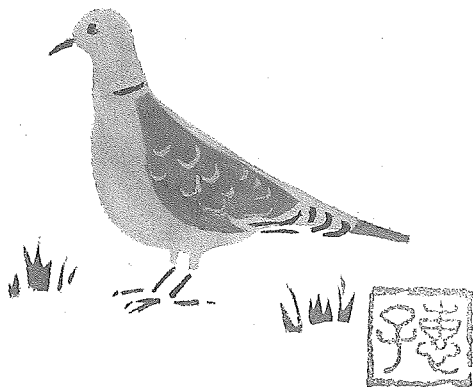
期日：5月28日（日）  
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乗車。  
担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）  
見どころ：爽やかな緑の風に乗って、あちらこちらから聞こえてくる鳥たちのさえずり。鳥によっては姿よりも声のほうに識別しやすい種もありますね。例えばオオヨシキリ、姿を見ただけでは、？…の人もいるはず。声と姿を一致させよう。

#### 長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

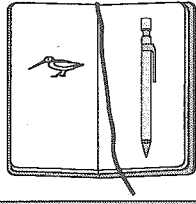
期日：5月27日（土）～28日（日）  
定員に達しましたので締切りました。

#### ◆6月の行事予定

6月4日（日）北本市・石戸宿定例探鳥会  
浦和市・民家園周辺定例探鳥会（差間コース）



(伊東恵子)



# 行事報告

1月23日(日) 狭山市 入間川

参加：28人 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ  
 オシドリ マガモ カルガモ コガモ オカ  
 ヨシガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ  
 ハジロ ノスリ イカルチドリ イソシギ タシ  
 ギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ  
 ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ  
 ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ  
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ  
 アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ  
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (46  
 種) 出発間もなくコゲラ2羽に出迎えられ、しば  
 らく立ち止まる。川原の風も穏やかで、カワセミ  
 が何度もホバリングを繰り返す。近くにはオシド  
 リ♂とゴイサギ2羽がスコープに入る。昨年と同  
 時期と全く同じ46種にびっくりし、うれしく解散。  
 (高草木泰行)

1月29日(土) 野田市 清水公園

参加：40人 天気：晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ  
 ヒシクイ マガモ カルガモ オオタカ イカル  
 チドリ タゲリ クサシギ イソシギ キジバト  
 カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ  
 セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ル  
 リビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヒ  
 ガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ  
 カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス  
 ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 早朝の  
 下見でオオタカが出ているとの情報あり。林や水  
 辺の鳥の姿もほとんどなく、心配な出だしたが、  
 後半になって、カワセミ、ヒシクイ(成若各  
 1)、オオタカが出現。次から次へとクサシギ、  
 タゲリなども見られ、皆大変満足そうだった。ヒ  
 シクイは前回は情報だけで、飛び立った後だった  
 が、やっと願いがかなった。(中村榮男)

1月29~30日(土~日) 宮城県 伊豆沼

参加：24人 天気：晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガ  
 ン オオヒシクイ オオハクチョウ コハクチョ  
 ウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨ  
 シガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ  
 ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミ  
 コアイサ カワアイサ トビ オジロワシ ケア  
 シノスリ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ  
 コチョウゲンボウ チョウゲンボウ キジ オオ  
 バン タゲリ タシギ ユリカモメ キジバト  
 カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセ  
 キレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタ  
 キ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ  
 ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオ  
 ジュリン アトリ カワラヒワ ベニマシコ シ  
 メ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス  
 ハシブトガラス (61種) 初めて伊豆沼に行く方が  
 多く、期待を胸に一路最初の探鳥地蕪栗沼へ。夕  
 方沼に埒入りするガンを待った。日没後、次から  
 次へと大群がやってくる。空が覆い尽くされるよ  
 うだ。その数3万羽以上。誰もが圧倒された。今  
 年は約4万羽近いガンが伊豆沼周辺に飛来してい  
 るが、約80%は蕪栗沼を埒としているとのこと。  
 翌日は伊豆沼の氷上に降りているオジロワシ3羽  
 が間近に見られた。他にはコチョウゲンボウやベ  
 ニマシコが良く出現してくれた。天候にも恵まれ、  
 すばらしい鳥見ができた。(中島康夫)

1月29~30日(土~日) 千葉県 銚子港

参加：25人 天気：29=快晴、30=晴

アビ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カン  
 ムリカイツブリ カワウ ウミウ ヒメウ コサ  
 ギ アオサギ カルガモ トモエガモ ヒドリガ  
 モ オナガガモ ホシハジロ スズガモ シノリ  
 ガモ ホオジロガモ ウミアイサ トビ ノスリ  
 チュウヒ ハヤブサ シロチドリ ダイゼン ハ  
 マシギ ミユビシギ ユリカモメ セグロカモメ

オオセグロカモメ ワシカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ミツユビカモメ キジバト コミミズク ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 潮の匂いを味わいながら海辺の散策。船橋海浜公園ではミヤコドリの姿は見えず、予定外のコミミズクとトモエガモが出現。波崎港と銚子港ではカモメ類基本8種全てを確認。犬吠埼では、やや遠かったものの複数のアビを見つけて盛り上がる。シロエリオオハムとおぼしき姿もあったが、参考記録とした。楽しかった久しぶり銚子探鳥会……。 (榎本秀和)

1月30日(日) 草加市 草加公園

参加: 18人 天気: 晴

コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ユリカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (25種) 超ビギナー向け探鳥会だったが、集まったメンバーは、子供を除くとベテランばかり。しかし、カモの絵を色ぬりする時は、超ビギナー時代に戻って、目の色、くちばしの色、等々、ひとつひとつを確認しながら作業していた。 (山部直喜)

2月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 66人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ コジュケイ クイナパン キジバト カワセミ アリスイ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 今にも降り出しそうな空を気にしながらの探鳥会だった。駐車場に出現したルリビタキを始めとして、ふれ合い橋のシロハラ、アカハラ、柳の木に止まったアリスイ、高尾橋でのカワセミと続き、最後は学習センター近くのベ

ニマシコだった。ヤマシギとカヤクグリに振られて残念だったけれど、それは欲張りすぎというべきか? (岡安征也)

2月6日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 29人 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ ハシビロガモ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 最初にタマシギが出現して大感激。ここで終わってもいいなとも思ったが、予定のコースを歩いていたら期待の鳥は大部分顔を見せてくれて楽しめた。水路にいたカワセミにはタマシギのときより大騒ぎで、その人気を再認識し、途中で止めないでよかったと思った。 (玉井正晴)

2月6日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 57人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ キジ イカルチドリ タゲリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 曇り空だが風もなくおだやかな午後。越冬中のコミミズクに会えることを楽しみにして歩いたが、この日は最後まで姿を見せてくれない。残念。救ってくれたのが、カワセミとタゲリ。2大スターが何度も姿を見せてくれて、十分に楽しませてくれた。 (手塚正義)



## 連絡帳

### ●ホームページのアドレス変更

下記の通り「bekkoame.」の次の「or」が「ne」に変わりました。

### ●展示会『見沼の野鳥』

期間：4月25日(火)～6月4日(日)

時間：午前9時～午後4時30分

主催：浦和くらしの博物館民家園

会場：同館展示室 入場料：無料

交通：浦和駅西口から大崎園芸植物園行きバスで、「念仏橋」下車

問い合わせ：電話048-878-5025

支部の隔月定例探鳥会を後援中の同館は、周辺の動植物をわかりやすく解説した展示を望む市民の声を受けて、野鳥をテーマとする展示をすることになりました。

支部はそれに協力し、所蔵のパネル写真等を貸し出します。いずれも会員諸氏が撮影した力作ばかりです。

### ●会員の個人情報はお教えできません

行政機関から、該当地域に住む会員の情報提供を求められる事や、他の会員の電話番号を会員から尋ねられる事などありますが、支部事務局では、役員でも会員でも、個人情報は一切お教えしない方針をとっています。

支部報上で探鳥会申込先として明示されているような場合は別ですが、例えば電話番号ひとつでも、それを他に教える事で、どのような迷惑がかかる事になるのか、まったく予測できないからです。ご了承ください。

### ●住所変更などの連絡は本部をお願いします

転勤転居などが多い季節。当支部の会員登録事務はすべて本部会員センターのオフィスコンピューターで管理しています。住所変更などは、下記宛てに直接ご連絡ください。

支部事務局にご連絡いただく必要はありません。本部を通じて連絡がありますので。

### ●移入鳥類のアンケート調査

九州大学大学院の研究者が、生物多様性の

保全を目的とする現況調査のため、国内移入鳥類の、種名/年月日/場所/環境/個体数/巣の場所・状況/初認時期/等の目撃情報を集めています。期間は今年8月まで。

送付先 hitorcb@mbx.nc.kyushu-u.ac.jp

または、〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1 九州大学大学院比較社会文化研究科矢田研気付 天野一葉まで。

詳しくは、<http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/%7Teshima/hito/Hitoha.html>。

### ●5月の事務局 土曜と日曜の予定

7日(日) シラコバト見つけ隊会議。

13日(土) 編集会議、研究部会議。

20日(土) 校正作業。

21日(日) 役員会議。

27日(土) 袋づめの会。

### ●会員数は

4月1日現在2,979人です。

## 活動報告

3月2日(木) 本部会員センターで、同封発送に関する打ち合わせ(海老原美夫)。

3月7日(火) 『野鳥』誌に関する審議会に出席(海老原美夫、楠見邦博)。

3月11日(土) 事務局整理(渡辺泰子)。

3月15日(水) 普及部だより発送(海老原教子、楠見文子)。

3月18日(土) 4月号校正(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、藤掛保司)。

3月19日(日) 役員会議(司会：藤掛保司、各部の報告・同封発送問題・その他)。

3月27日(月) 4月号発送(倉林宗太郎)。

## 編集後記

シラコバト見つけ隊による調査が始まってから、通勤時に楽しみがひとつ増えた。今までは耳にとまらなかつたものが、とまるようになった。「4声か、違うな」。駅のホームでも、後方の木々の中から聞こえてくる3声が気になる。後ろに立っている人が、「乗らないんですか」。(内藤)

『しらこぼと』2000年5月号(第193号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに掲載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用